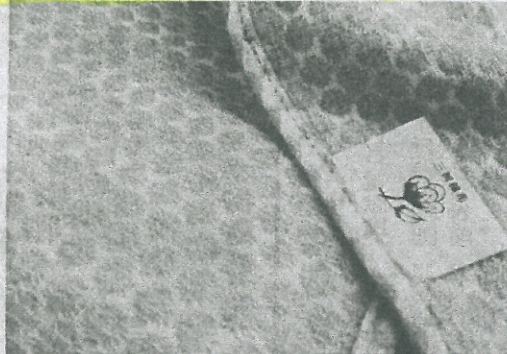


ミカワ・コットン・プロジェクト

三河綿花の製品披露

「テックスビジョン」で

三河産地で綿花を栽培し製品化することを目指す「ミカワ・コットン・プロジェクトin蒲郡」の成果が、愛知県蒲郡市で11月15、16の両日開催された。害虫などに悩まされながら種子付きベースで200キの綿花を収穫し、ハナカチ、タオ



三河の綿花で作ったハンカチ

ンカチ、タオなどに商品化した。同プロジェクトは、三河織物工業協同組合が中心となつて進めているもの。昨年、つてを頼って同組合が借りた遊休農地約5000平方メートルに、綿の種をまいた。害虫などに悩まされながら種子付きベースで200キの綿花を収穫し、ハナカチ、タオから今年4月に導入した綿繰り機で取り除き、大阪の紡績会社に紡いでもらった。これを縲糸として使い、ハンカチ、タオル、ガーゼケット、パジャマ、ふとんカバーなどを商品化。地域団体商標として登録されている「三河木綿」ブランドで打ち出す。同プロジェクトがメディアに注目された効果で、「三河木綿」商品の売上高は急速に拡大してい

るといふ。同商標は、三河木綿が加わることで、約1万平方メートルに作付けし、約1万平方メートルの6倍の1200キの収穫を見込んでいます。その収穫目標の3分の2、800キは種子だ。それを大阪の綿実油メーカーへ供給することも決まった。来年は、約1万6000平方メートルの作付けを予定している。

三河木綿が加わることで、約1万平方メートルに作付けし、約1万平方メートルの6倍の1200キの収穫を見込んでいます。

今年、昨年の2倍の約1万平方メートルに作付けし、約1万平方メートルの6倍の1200キの収穫を見込んでいます。

その収穫目標の3分の2、800キは種子だ。それを大阪の綿実油メーカーへ供給することも決まった。来年は、約1万6000平方メートルの作付けを予定している。